

各事業の状況と成長戦略

各事業に関する足元の事業環境と業況、直面している課題、現状を踏まえた今後の成長戦略についてご紹介します。



事業部長
三戸 武士

地政学リスクの顕在化で市場が一変 足元での需要の高まりに応えていく

2023年度は、コロナ禍の終息に伴う航空機需要の回復により、スポンジチタンの需要も徐々に増加しました。また、ロシアによるウクライナ侵攻に端を発するロシア産スポンジチタンの調達を回避する動きの影響で、需給バランスが崩れ、当社もフル稼働を継続しましたが、供給不足が続いています。一方、一般産業用途向けでは、前年並みの水準を維持しました。半導体向け高純度チタンの需要については、減速していましたが一部で回復の兆しが見られました。

収益面では、原料鉱石、電力価格などの高騰を受け、販売価格の転嫁を行ったものの、営業利益では前期比減益となりました。

こうした市場環境を受けて、茅ヶ崎工場と若松工場において生産設備の増強を図り、2026年度以降は年間3,000tの増産を予定していますが、それでも需給ギャップは埋まらない見通しです。さらなる増産については、今後の市場の見通しや経済合理性、投資リスクを含め、慎重に検討を進めます。

スポンジチタン市場の逼迫が続くなかで、中長期的には、例えば高純度のチタンを使った医療用チタン合金市場など、新たなビジネス展開についても視野に入れています。



事業部長
船橋 英雄

中国市場の変化が事業に影響 強みを発揮し社会課題に挑む

近年、ポリオレフィン用製造触媒の市場には大きな変化が見られています。特に中国企業の動向には目が離せません。2022年以降、中国においてポリプロピレンの過剰生産が続いています。当事業部では以前から中国向けにも触媒を販売しており、中国での需要拡大を見据えて生産ラインを増強したのですが、中国がポリプロピレンの輸入国から輸出国へ転じた影響により、当事業部の設備稼働率も足元では若干低下しています。

一方で、当事業部には40年以上の経験で培われた業界動向に対する洞察力があります。ポリプロピレンには多様なアプリケーションが存在しますが、グローバルな大手化学メーカーが新興国にライセンスを供与することで、新興国市場が育ってきた側面があります。当事業部には、こうした化学メーカーとの繋がりもあり、アプリケーションの動向を見据えた事業展開ができるところに大きな強みがあります。

圧倒的かつ安定した品質もまた大きな強みです。環境技術の分野でも、当事業部の環境への貢献度は大きく、こうした先進性が、若手研究開発スタッフのモチベーション向上にも繋がっています。



事業部長
藤井 隆

2024年度も厳しい事業環境が続く 中長期的な成長に備え開発の手は緩めない

当事業部の製品群は、積層セラミックコンデンサ(MLCC)をはじめとする電子部品向けの材料が主体であり、特にMLCC内部電極用の超微粉ニッケルが足元の主力製品であります。

世界のMLCC市場は、2022年以降中国経済減速の影響を受け鈍化傾向にありますが、徐々に回復軌道に乗る兆しが見られるようになりました。しかしながら、電子部品材料全体の実質的な回復は、川上から川下までの流通在庫がほぼ解消される2025年以降になると見えています。

中長期的にはMLCC需要は自動車の電装化やAIサーバー市場などの拡大が進み、さらなる成長が期待されています。そのため、市場拡大を見据えた開発の手は決して緩めず、事業継続と拡大に向けての幅広い取り組みの必要性を感じています。

ここ数年の重要課題は人材の確保です。新卒採用が難しいなかで中途採用にも積極的に取り組んでいますが、昨今の人材流動化の流れを受け、ある程度の人材流出は避けられません。優秀な人材を社内に引き留めるためにはやはり会社自体の魅力、職場環境の魅力を高める努力が不可欠です。自分自身も含め、こうした魅力づくりには高い意識を持って臨む必要があると考えています。



事業部長
山口 健一

WEBTiはいよいよ事業化の段階へと進む 水素社会への移行を事業機会と捉える

新素材事業部は、技術戦略本部で取り組む開発テーマのなかで、事業化の見通しが立ったプロジェクトについて、事業化を確実に進めていくために設置された事業部です。現在は2つのプロジェクトが進行中で、1つは親会社のJX金属(株)と協働して進めている案件、もう1つは「チタン多孔質体(WEBTi)」です。WEBTiについては20年ほど前からその可能性を追求してきましたが、水素製造装置の一つであるPEM型水電解装置の部材としての用途が近年注目され、現在は顧客基盤と量産体制の構築段階に入っています。将来の事業ポートフォリオを見据えると、WEBTiもさまざまな用途に展開していく必要がありますが、まずは今後の水素社会への移行を睨み、水素を生み出す装置の心臓部に組み込まれることに注力します。

世界では、既に同様の機能を持つ素材を量産化している欧米企業が存在しますが、それらの企業だけでは今後大きく拡大する市場のカバーが困難であり、当社にも大きい事業機会があると考えています。これから量産工場の建設が始まりますが、その先の事業拡大の青写真も描かなくてはなりません。まだまだ課題は多いものの、一つずつクリアしていく考えです。